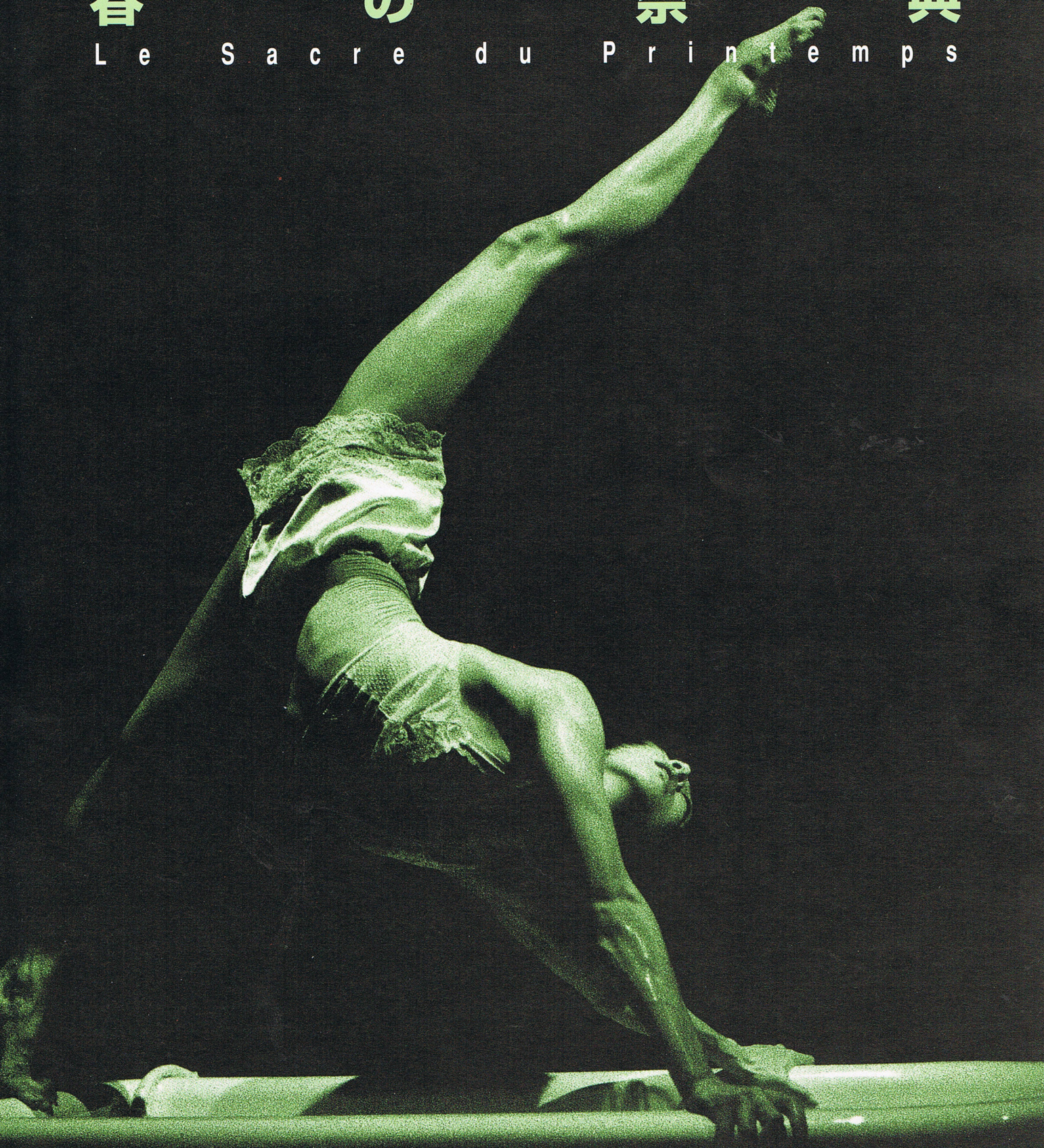


H・アール・カオスと100人のオーケストラの共演

春の祭典

L e S a c r e d u P r i n t e m p s

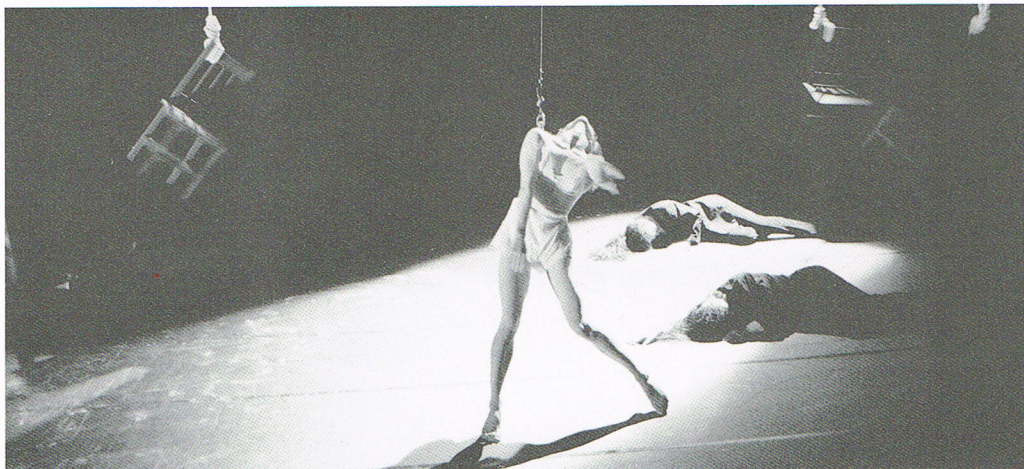


1999年5月28日(金) 19:00開演
愛知県芸術劇場大ホール

構成・演出・振付:大島早紀子/ダンス:H・アール・カオス/指揮:大友直人/演奏:名古屋フィルハーモニー交響楽団
トーク「春の祭典～身体の復権」5月9日(日)/展示「春の祭典～その誕生から」4月28日(木)～5月9日(日)

春の祭典

Le Sacre du Printemps



20世紀の芸術に大きな衝撃と影響を与えてきた「春の祭典」。この春、愛知芸術文化センターは、日本で初めて、大編成のオーケストラによる本格的な「春の祭典」を実現。一昨年の北米ツアーで「歴史に残る最も優れた作品」と評された、大島早紀子演出・振付、H・アール・カオス版「春の祭典」を、大友直人指揮、名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏によりお届けします。1913年5月29日、「春の祭典」初演は大センセーションとなりました。地震を思わせるほどのどよめき、賛辞と罵声で音楽が聞き取れぬ中、ダンサーは踊り続けたといわれています。作曲家ストラヴィンスキー、振付家ニジンスキー、芸術家の共同制作で生まれたこの初演こそ、バレエや音楽、美術、文学など全芸術を身体という視点で再統合する試みであり、西洋近代芸術に新たな道を開いた作品といえるでしょう。以来「春の祭典」の振付は時代の身体観を表すものであり続けました。H・アール・カオス版「春の祭典」は、今世紀を締めくくるにふさわしい公演であり、トーク・映像・展示を併せ、〈20世紀の身体と芸術〉を幅広く紹介します。

公演「春の祭典」

日時=1999年5月28日(金) 18:30開場 19:00開演(終了予定20:20)

会場=愛知県芸術劇場大ホール 名古屋市東区東桜1-13-2 地下鉄東山線・名城線栄駅下車4番出口から徒歩3分

構成・演出・振付=大島早紀子 出演=H・アール・カオス(白河直子、平山素子、勝倉寧子、菊池久美子、木下菜津子)

指揮=大友直人 演奏=名古屋フィルハーモニー交響楽団 ●アフタートークあり(出演:大島早紀子、大友直人、萩原朔美)

振付は、独特な美意識と哲学に支えられた創作活動により、世界有数の演出・振付家として知られている大島早紀子。ニジンスキーの再来と評される白河直子や、名古屋出身で、第3回世界バレエ&モダンダンスコンクールで大島の作品(振付特別賞)により、金賞とニジンスキー賞をダブル受賞した平山素子が出演します。

料金—S席4,500円(当日5,000円) A席3,500円(当日4,000円)

●公演チケットにてトーク(5月9日)、展示(4月28日~5月9日)も入場いただけます。*チケット発売開始—4月6日(火)

●チケットぴあ—電話052-320-9999 ●チケットセゾン—電話052-290-9999

●愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド—電話052-972-0430にて発売

トーク「春の祭典~身体の復権」

日時=1999年5月9日(日) 13:30開演(終了予定18:00)

会場=アートスペースA(12階) 料金=1,000円(5月28日のチケットでご入場いただけます。) *先着280名

「春の祭典」がその後の芸術にもたらした意義や、初演以降行われてきた様々な振付家による「春の祭典」への挑戦を考察しながら、20世紀の身体について探究してゆきます。

プログラム第1部=上映&トーク「春の祭典とその振付に見られる身体性」

ゲスト=鈴木晶(舞踊史)、沼野充義(ロシア、東欧文学) 司会=萩原朔美(エッセイスト)

上映=「春の祭典」の変遷(1993年、61分)

プログラム第2部=トーク&デモンストレーション(H・アール・カオス版「春の祭典」より)

出演=大島早紀子(演出・振付家)、白河直子(ダンサー)

展示「春の祭典~その誕生から」

日時=1999年4月28日(水)~5月9日(日) 10:00~18:00(5月6日休み)

会場=アートスペースG(12階) 料金=500円(5月28日のチケットでご入場いただけます。)

ニジンスキーによる「春の祭典」初演の資料を中心にした展示。衣装は日本初公開となります。美術家でもあり、台本考案者ともいわれるニコライ・レリッヒの絵画やオリジナル写真、スケッチ、パンフレットなどから構成します。



大島早紀子



白河直子



大友直人